



練 供 養

平成11年3月
第30号

発集発行

中町2丁目2-8-4
中府郡芸安島
正観寺
真言宗
小出真行

散 華

自分のものでありながら、
その実体を知りたいのは、
我が心である

「十住心論より」

散華とは文字通り花を散らすこと、花を投げることをいいます。では、どの様な時に行うのかと申しますと、普通、道場内を僧が行道(供養しながら歩くこと)したり、僧が稚児と歩いて行くとき(練供養)などに、(仏を讃える)華を投じながら厳かに進みます。



密教の散華として特別なものに(散華得仏)といわれるものがありますが、これは、ひろげられた曼荼羅に向かって、目をつぶった(あるいはかくした)信者が華を投げ、その落ちたところの仏を自分の念持仏とする儀式ですが、曼荼羅の上に描かれているすべての仏は、その位置がどこであろうとも、すべて大日

如来の化現(あらわれ)であり、大日如来と同じ位置(同

一法然位)に立ったと考えられていますので、多数の方が入壇されます血縁灌頂でも、最終的には「大日如来」と縁を結ばせていただくのです。



